

〈特集「モダリティ」〉

タイ語のモダリティ

Modality in Thai

スニサー ウィッタヤーパンヤーノン(齋藤)

Sunisa Wittayapanyanon (Saito)

東京外国語大学世界言語社会教育センター
World Language and Society Education Center, Tokyo University of Foreign Studies

要旨: 本稿は特集「モダリティ」(『語学研究所論集』第16号, 2011, 東京外国語大学)に寄与する。本稿の目的は30個のアンケート項目に対するタイ語データを与えることである。

Abstract: This report contributes to the special cross-linguistic study on ‘modality’ (Journal of the Institute of Language Research 16, 2011, Tokyo University of Foreign Studies). The purpose of this paper is to offer the Thai data for the question of 30 phrases.

キーワード: タイ語, モダリティ

Keywords: Thai language, Modality

1. はじめに

本稿では、『語学研究所論集』第16号特集「モダリティ」のアンケート項目の(1)から(30)までの例文の筆者によるタイ語訳を掲げ、それに適宜補足説明を加える。日本語の例文(1)に対して、異なるタイ語の語順にて、比較例示すべき複数の文が考えられる場合、(1)-1, (1)-2...として複数の文を示している。それに加え、各例文を説明する目的で別の文を追加している場合は、(1)-a, (1)-b...として記載している。また、タイ語において同じ位置で日本語に対応するタイ語語彙が複数ある場合は、[.../...]とし、どの語彙を使ってもよいということを示す他、<...>で示したものは非表示とすることが可能であることを意味している。また本稿のグロスで使用している略語については、本稿末に一覧を記載している。タイ語については、発音記号での表記としている。

2. タイ語訳文データ

(1) 【許可】「～してもいい」

「(その仕事が終わったら) もう帰ってもいいですよ。」

(1)-1

<cà?> klàp ləəy kɔ̌ dāay ná?
AUX.FUT return right now also can PTCL

(1)-2

klàp dāay ná?
return can PTCL



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed/ja>

許可を意味する助動詞 *dâay* を用いた複数の表現が可能である。(1)-1 は *kôo* 「～も」を付加することで、複数ある選択肢の中で「帰る」ことを選択肢の 1 つとして提示している。タイ語は意味・統語上の必須項の省略を許す Pro Drop 言語であり、文脈により主語あるいは目的語を省略することが可能であるため(峰岸&スニサー 2019), ここで例示しているいずれの例文でも主語となる対話者は非表示としているが、終結小辞 *ná?* を入れることで対話者への許可をより明確に示すことになる。

(2) 【禁止】「～するな」

「(腐っているから、あなたは) それを食べてはいけない/それを食べるな。」

(2)-1

kin mây dâay ná?
eat NEG can PTCL

(2)-2

yàa kin [ná?/sɨ?]
AUX.PROH eat PTCL

(2)-3

hâam kin ná?
TR.PROH eat PTCL

(2)-4

mây kin ná?
NEG eat PTCL

(2)-1 では状況可能を示す助動詞 *dâay* を *mây* によって否定し、文末に行為要求の意味を有する終結小辞 *ná?* を付加することで不許可を示している。*ná?*がない場合は、「食べられない」という状況を説明する文となる。(2)-2 では禁止の意味を持つ助動詞 *yàa* を、(2)-3 では禁止の意味を持つ動詞 *hâam* を命題となる動詞とともに用いることで、禁止の命令文としている。(2)-2 で用いている *yàa* よりも、(2)-3 で用いている *hâam* の方が、禁止要求が強いニュアンスとなる。両文とも文末に行為要求の意味を有する終結小辞 *ná?*を用いることで表現を和らげることが可能となる。一方、(2)-2 で示した同意共感要求の機能を持つ終結小辞 *sɨ?*(スニサー 2017) は、命令文であることをより明示する機能を有する終結小辞となる。(2)-3 で用いている *hâam* は、命題内容が明らかであれば、単独で使用することも可能である。また、(2)-4 のように、否定を示す *mây* と文末に行為要求の意味を有する終結小辞 *ná?*を付加することで禁止を示すこともできる。

禁止を示すには、文脈によって義務の意味を持つ助動詞 *tôŋ* を用いることもある。

(2)-a

tôŋ mây khuy kan ráwàaŋ sòp
must NEG talk together during test
「試験中、おしゃべりしてはいけない。」

(3) 【義務】「～しなければならない」

「(遅くなったので) 私たちはもう帰らなければならない。」

(3)-1

phûakraw tôŋ kláp léew
1.PL must return AUX.PRF

(3)-2

phûakraw mây klàp mây dâay léew
1.PL NEG return NEG can AUX.PRF

(3)-1 は義務の意味を持つ助動詞 *tâj* を用いる文型となるが, (3)-2 のように状況可能の助動詞 *dâay* を含んだ二重否定の文型によって義務を意味することも可能である. 両文とも完了を示す助動詞 *léew* を用いることで, 「～する時間になった」という意味を持たせている.

(4) 【推奨】「～したほうがいい」

「(雨が降るそうだから) 傘を持って出かけたほうがいいよ。」

(4)-1

phók rôm pay dâay dii kwàa ná?
take umbrella go together good COMP PTCL

(4)-2

phók rôm pay dâay sì?
take umbrella go together PTCL

(4)-1 は比較文型となり, 「傘を持って出かける」方が「傘を持たないで出かける」よりも良いということを示し, 推奨を表している. (4)-2 では, 同意共感要求の機能を持つ終結小辞 *sì?* を命令文に付加した文型となる.

(5) 【評価的義務】「～するべきだ/～するものだ」

「歳をとったら, 子供の言うことを聞くべきだ/聞くものだ。」

?aayú? mâak léew kôo khuan faj thîi dèk phûut bâaj
age a lot AUX.PRF so should listen what child speak sometimes

「～することが正しい」といった評価的義務の意を有する助動詞 *khuan* を使用した文型となるが, *khuan* の前に結果を示す *kôo* 「だから」を置くことで, 「歳をとった」という理由で, その結果「子供の言うことを聞くべき」とのニュアンスとしている. タイ社会は年上を敬う傾向が強いため, 本例文には違和感があるが, *bâaj* 「時には/多少」を付加することで許容されるとみなしている. 上記は「言うことを聞く」を「耳を傾ける」という意味での訳文であるが, 「従う」という意味であれば, 参考として「子供は大人に従うべき」という文でのタイ語訳を 5-(a), 5-(b)に例示する. (5)-a は, 対話者が子供であり, 「子供=幼い/未熟であるので, 大人の言うことを聞くべき」という意味であるのに対して, 5-(b)は一般的に「子供は大人の言うことを聞くべき」という意味となる.

(5)-a

pen dèk kôo khuan chúafaj phûuyày
COP child so should follow adult
「子供だから, 大人の言うことを聞くべきだ」

(5)-b

dèk khuan chúafaj phûuyày
child should follow adult
「子供は大人の言うことを聞くものだ」

(6) 【希望】「～したい」

「お腹が空いたので、(私は) 何か食べたい。」

hǐw	léew	[yàak/tǒŋ kaan]	kin	ʔaray	kôo	dâay	sák	yàaŋ
hungry	PRF	want	eat	something	also	can	just a	sort

希望を示す yàak や tǒŋ kaan を命題となる動詞とともに用いる文型となるが、tǒŋ kaan は書き言葉となり、口語では専ら yàak が用いられる。ʔaray+kôo dâay は、複数の食べ物の中でいずれも可能、さらには文末に sák yàaŋ 「1 つぐらい」という語を付加することで「何か 1 つ、何でも良いので食べたい」というニュアンスとなる。kôo dâay を用いない場合、「お腹が空いたので、何か食べたいが、その何かは何なのかわからない」というニュアンスとなる。また、その場合は対話者への希望を伝えるのではなく、発話者の状態を説明する独り言として捉えられる可能性もある。但し、食べ物の提供という希望を対話者へ明確に伝えたい場合は、6-(a)のような文とするのが自然である。使役の意を持つ hây と命題となる動詞 kin 「食べる」を用い、「対話者が発話者に食べさせる」という希望を伝えることになる。

(6)-a

hǐw	léew	mii	ʔaray	hây	kin	máy
hungry	PRF	have	something	CAUS	eat	Q

「お腹が空いたので、何か食べるものはありますか。」

(7) 【意志】「(私が) ～しよう」

「私が持ちましょう。」

(7)-1

<chán>	thǔuu	[náʔ/máy]
<SBJ.1.SG.F>	take	[PTCL/Q]

(7)-2

hây	chán	thǔuu	[náʔ/máy]
CAUS	OBJ.1.SG.F	take	[PTCL/Q]

(7)-3

<chán>	thǔuu	hây	[náʔ/máy]
<SBJ.1.SG.F>	take	CAUS	[PTCL/Q]

(7)-4

hây	chán	thǔuu	hây	[náʔ/máy]
CAUS	OBJ.1.SG.F	take	CAUS	[PTCL/Q]

(7)-1 は同意共感要求としての終結小辞 náʔを用い、発話者の意志を示す文となる (スニサー 2017)。また、náʔに代わって疑問小辞 máy を用いると、A(人)+B(動詞) +máy 「A が B をしましょうか」と対話者の意志を伺うことで対話者への提案となり、発話者の意志を示すことも可能である。なお、A に該当する主語となる chán は非表示とすることが多い。他にも、(7)-2、(7)-3、(7)-4 のように使役表現によっても発話者の意志を示すことも可能である。(7)-2 は、A+hây+B(人)で「A が B にさせる」という意味となるが、B に 1 人称表現が入ると、対話者からの許可を求めることで、発話者の意志を示すこととなる。なお、このケースでは主語となる A が対話者の場合は非表示とするのが一般的である。(7)-3 は、A(人)+B(動詞)+hây+C(人)「A が C のために B をしてあげる」という表現となるが、C に入る対話者は文脈上明らかたため、非表示とすることが多

く、7-(3)も非表示としている。また、文脈に応じて、A に該当する主語となる *chán* も非表示とすることもあ
る。7-(3)の文型では C(対話者)のために何かをしてあげたいという意味を示す表現である。(7)-2 と(7)-3 の
両方の意味を合わせ持つのが(7)-4 となる。A(人)+*hây*+B(人)+C(動詞)+*hây*+D(人)「A が B に D のために C
をさせてあげる」という使役表現となるが、(7)-3 と同様 D に該当する対話者、そして主語となる A は同じく
対話者であるが、ともに非表示とすることが多い。対話者のために行う発話者の行為への許可を求めること
で発話者の意思を示している。

(8) 【勧誘】「(私たちが) ~しよう」

「じゃあ、一緒に昼ご飯を食べましょう。」

nán *pay* *kin* *khâaw* *thîaŋ* *dûaykan* <*thò?*/*ná?*/*máy*>
CONJ go eat lunch together <PTCL/PTCL/Q>

結論/結果を示す接続詞 *nán* 「それでは」を文頭に入れることで、対話者が昼食に行く意志があることを示
した後、発話者が一緒に行くことを勧誘する文脈となる。勧誘の意味を有する終結小辞 *thò?*, 行為要求の意味
を有する終結小辞 *ná?*, もしくは対話者の意志を伺う疑問小辞 *máy* を付加することも可能である。

(9) 【相手の意向が不明な場合の勧誘】「～ませんか」

「一緒に昼ご飯を食べませんか？」

(9)-1

cà? *pay* *kin* *khâaw* *thîaŋ* *dûaykan* *máy*
AUX.INT go eat lunch together Q

(9)-2

pay *kin* *khâaw* *thîaŋ* *dûaykan* <*thò?*/*ná?*/*máy*>
go eat lunch together <PTCL/PTCL/Q>

(9)-1 では意思の意味を有する助動詞 *cà?* を使用することで、相手の意向を確認する疑問文となるが、*dûaykan*
「一緒に」を付加することで勧誘であることも示しており、相手の意向が不明な場合に勧誘表現として使用
する。(9)-2 は(8)【勧誘】の訳文から *nán* 「じゃあ」を除いたものとなるが、相手の意向が不明な場合でも勧
誘表現として使用可能である。

(10) 【希望】「～といいなあ／～してほしいなあ」

「明日、良い天気になるといいなあ。／明日は良い天気になってほしいなあ。」

(10)-1

phrûŋnú *thâa* *ʔaakàat* *dii* *kôo* *dii* *sî?*
tomorrow if weather fine so good PTCL

(10)-2

phrûŋnú *yàak* *hây* *ʔaakàat* *dii* *caŋ*
tomorrow want let weather fine PTCL

(10)-1 は *thâa* 「もし」の後に仮定や条件を表す内容が入り、*kôo* 「それなら」の後には起こり得る結果や希
望を示す内容が入る表現となるが、終結小辞 *sî?* によって「良い天気になってほしい」という希望を強めてい
る。(10)-2 は *ʔaakàat* 「天候」といった非生物を目的語とした使役表現と願望を表す *yàak* を組み合わせた表現

となり、終結小辞 *caŋ* によって希望の意味を強調している。

(11) 【命令】「～しろ」

「(私はここで待っているから) すぐにそれを持って来なさい。」

(11)-1

<ke> pay ʔaw khǒŋ nân maa đǎawní
<2.SG> go take thing that come right now

(11)-2

<ke> pay ʔaw khǒŋ nân maa siʔ <đǎawní>
<2.SG> go take thing that come PTCL right now

命令文型は、①*coŋ*+動詞、②動詞、③動詞+終結小辞 *siʔ*があり、①は書き言葉で、②と③は話し言葉となる。(11)-1 は②の文型、(11)-2 は③の文型を使用している。(11)-2 では *đǎawní* 「すぐに」を非表示とすることがあるが、*đǎawní* 「すぐに」を用いる場合は、終結小辞 *siʔ*の後に間を空ける必要がある。また、これらの表現の主語は非表示となることが多いが、命令の対象者を特定する場合は主語を表示する必要がある。

(12) 【懇願】「～していただけますか？」

「そのペンをちょっと貸していただけますか？」

(12)-1

khǒ yuum pàakkaa dâam nán nòy dâay máy [kháʔ/khráp]
TR.REQ borrow pen CLF that a little can Q [PTCL.F/PTCL.M]

(12)-2

khǒ yuum pàakkaa dâam nán nòy náʔ [kháʔ/khráp]
TR.REQ borrow pen CLF that a little PTCL [PTCL.F/PTCL.M]

(12)-3

mây sâap càʔ khǒ yuum pàakkaa dâam nán nòy dâay máy [kháʔ/khráp]
NEG know AUX. TR. borrow pen CLF that a little can Q [PTCL.F/PTCL.M]
FUT REQ

(12)-4

hây yuum pàakkaa dâam nán nòy dâay máy [kháʔ/khráp]
CAUS borrow pen CLF that a little can Q [PTCL.F/PTCL.M]

依頼の意味を表す動詞 *khǒ* の後には動詞またはモノなどの名詞が来るが、疑問文=(12)-1、平叙文=(12)-2のいずれの文型も可能である。(12)-1 では疑問文とすることで間接的表現となり、また(12)-1 と(12)-2 では *nòy* 「ちょっと」を入れることで表現を和らげつつ、さらに終結小辞 *kháʔ/khráp* を付加することで丁寧さを示している。(12)-3 では、(12)-1 の前に定型表現 *mây sâap càʔ* 「～になるかは分からないが=恐れ入りますが」を文頭に加えることで、より謙虚な姿勢を示している。また、(12)-4 のように使役表現と可能表現を組み合わせ、ここでは非表示となっているが対話者を主語として対話者視点で、発話者にペンを借りさせることについて対話者に許可を求める、といった文型とするのも懇願を示す表現の1つとなる。

(13) 【能力可能】「～できる」

「あの人は中国語が読めます。／あの人は中国語を読むことができます。」

(13)-1

khon	nán	<săamâat>	ʔaan	phaasăa	ciin	dâay
person	that	<can>	read	language	Chinese	can

(13)-2

khon	nán	<săamâat>	ʔaan	phaasăa	ciin	pen
person	that	<can>	read	language	Chinese	can

(13)-3

khon	nán	<săamâat>	ʔaan	phaasăa	ciin	ʔòok
person	that	<can>	read	language	Chinese	can

(13)-1, (13)-2, (13)-3 は全て能力的に可能であることを示す表現となるが、それぞれ若干ニュアンスが異なる。(13)-1 で使用している *dâay* は汎用的に使用される能力可能や状況可能を示す助動詞となる。(13)-2 の *pen* は学習や練習によって後天的に可能となる技能・能力が使用可能であることに焦点を当てる場合に使用し、この場合であれば漢字の読み方や仕組みを理解し、読めるというニュアンスを示すこととなる。(13)-3 の *ʔòok* を使用する場合は、非常に難しい漢字や乱雑な字、崩し字といった特殊な文字を読むことができるといった意味を含むものとなる。いずれの訳文でも *dâay/pen/ʔòok* とともに *săamâat* を使用することもあるが、非表示することが多い。逆に上記で述べた *dâay/pen/ʔòok* で意味するニュアンスが文脈として明らかな場合、稀に *dâay/pen/ʔòok* を非表示とし、*săamâat* だけとする場合もある。

(14) 【状況可能】「～できる」

「明かりが暗くて、ここに何が書いてあるのか、読めない。」

(14)-1

mûut	ʔaan	mây	dâay	wâa	khian	wáy	wâa	ʔaray
dim	read	NEG	can	COMP	writtem	STAT	COMP	something

(14)-2

mûut	ʔaan	mây	ʔòok	wâa	khian	wáy	wâa	ʔaray
dim	read	NEG	can	COMP	written	STAT	COMP	something

(14)-3

mûut	ʔaan	mây	wăy	wâa	khian	wáy	wâa	ʔaray
dim	read	NEG	can	COMP	written	STAT	COMP	something

(14)-1 で使用されている *mây* *dâay* は、暗いという状況に起因し、文字の姿が見えずに読めないことを表している。(14)-2 の *mây* *ʔòok* は文字自体の姿は見えるものの、暗くて何と書いてあるかが読めない状況であることを示している。また、(14)-3 の *mây* *wăy* はその暗さであれば、通常であれば読める人が多い可能性が高いかもしれないものの、発話者の視力が暗さよりも大きな要因となって読めない状況であることを意味するものである。

(15) 【確信】「～はずだ」

「(朝早く出発したから) 彼らはもう着いているはずだ／もう着いたに違いない。」

(15)-1

phûakkháw	ʔòkðənthaaŋ	kan	tèecháaw	tənní	nâa càʔ	thũŋ	léew	[náʔ/lèʔ/lâʔ]
3.PL	leave	PL	early morning	now	AUX.INFER	arrive	PRF	PTCL

(15)-2

phûakkháw	ʔòkðənthaaŋ	kan	tèecháaw	tənní	nâa càʔ	thũŋ	léew	nêenêe
3.PL	leave	PL	early morning	now	AUX.INFER	arrive	PRF	surely

根拠に基づく推量を示す時に用いる *nâa càʔ* とともに (15)-1 では終結小辞 *náʔ/lèʔ/lâʔ* を用いることで、より確度の高い推量であることを示している。(15)-2 では、これらの終結小辞の代わりに、副詞 *nêenêe* 「きっと」が同様の機能を担っている。

(16) 【推量】「～だろう」

「(あの人は) 明日はたぶん来ないだろう。」

(16)-1

phrúní	khon	nán	khəj càʔ	mây	maa	ròk
tomorrow	person	that	AUX.INFER	NEG	come	PTCL

(16)-2

phrúní	khon	nán	khəj càʔ	mây	maa	nêe	ləəy
tomorrow	person	that	AUX.INFER	NEG	come	surely	PTCL

(15) 【確信】 で用いた *nâa càʔ* は根拠に基づく推量の際に使用するに對して、*khəj càʔ* は根拠が不確かな場合に用いる表現となる。根拠がない推量であるものの、その可能性が高いことを示すため、(16)-1 では否定を強める *ròk*, (16)-2 では *nêe* 「確かに」とそれを強める *ləəy* といった表現と共起することがある。

(17) 【疑念】「～のではないか」

「彼らはまだ来ないなんて、きっと途中で車が壊れたんじゃないか。」

(17)-1

phûakkháw	yaŋ	mây	maa	rót	sǎa	klaaŋthaan	rúpláaw
3.PL	yet	NEG	come	car	break	on the way	Q

(17)-2

phûakkháw	yaŋ	mây	maa	səŋsǎy	rót	càʔ	sǎa	klaaŋthaan	nêe	ləəy
3.PL	yet	NEG	come	suspect	car	AUX.	break	on the way	surely	PTCL
						INFER				

(17)-1 では疑問小辞 *rúpláaw* を用いて、疑問文型で疑念を表している。(17)-2 では *səŋsǎy* 「疑う」という動詞で疑念を呈し、*nêe ləəy* 「確実に」によって、疑念を強めている。

(18) 【可能性】「～かもしれない」

「(昼間だからあの人は家に) さあ、いるかもしれないし、いないかもしれない。」

(18)-1

ʔùuu	klaaŋwan	ʔàat càʔ	yùu	rùuu	<ʔàat càʔ>	mây	yùu	kóo	dâay
INTJ	daytime	AUX.INFER	exist	or	AUX.PSBL	NEG	exist	also	AUX.PSBL

(18)-2

mây	rúu	sì?	klaaŋwan	ʔaat cà?	yùu	rǔuu	<ʔaat cà?>	mây	yùu	kôo	dâay
NEG	know	PTCL	daytime	AUX.	exist	or	AUX.	NEG	exist	also	AUX.
				PSBL			PSBL				PSBL

(18)-3

mây	nêecay	ná?	klaaŋwan	ʔaat cà?	yùu	rǔuu	<ʔaat cà?>	mây	yùu	kôo	dâay
NEG	sure	PTCL	daytime	AUX.	exist	or	AUX.	NEG	exist	also	AUX.
				PSBL			PSBL				PSBL

上記のいずれの訳文でも用いられているʔaat cà?は可能性を示す場合に用いられる表現となり、文末に kôo dâay 「～も可能である」と共起してよく使用される。(18)-1 では間投詞rǔuu 「さあ」、(18)-2 では mây rúu sì? 「分からないが」、(18)-3 では mây nêecay ná? 「確信はない」といった表現を前置きにそれぞれ用いることで、いずれの選択肢の可能性があることを示している。なお、2つ目のʔaat cà?は非表示することもある。

(19) 【視覚／聴覚以外の感覚による判断】「～ようだ」

「(額に触ってみて) どうもあなたは熱があるようだ。」

(19)-1

[duumǔan /duuthâa /	khun	cà?	mii	khây	ná?
thâathaaj/rúusùk/nâaklua]					
[it looks/it looks/	2.SG	AUX.INFER	have	fever	PTCL
it looks/feel/be afraid]					

(19)-2

khun	nâa cà?	mii	khây	ná?
2.SG	AUX.INFER	have	fever	PTCL

duu は「見る」という動詞であるが、duu が含まれた duumǔan/duuthâa といった語も手で触るといった触覚による判断においても使用可能である。thâathaaj は「様態」の意となり、こちらも視覚に関連する語となるが、この語も同じく触覚による判断にも使用可能である。rúusùk 「感じる」を用いる場合は触覚による判断を示す場合に、nâaklua 「心配である」については、熱があることに対する不安といった主観的な判断を示す場合にそれぞれ用いる表現となる。また、触覚という根拠に基づく推量となるため、(15) 【確信】で使用している nâa cà?を含んだ文も(19)-2 のように使用することが可能である。

また、duumǔan/duuthâa/nâaklua については、他者からの症状説明といった口頭での言語情報や医師の診断書といった文字情報などを根拠にした判断の場合でも使用することが可能である。

(19)-a

[duumǔan/duuthâa/nâaklua]	khun	cà?	tâŋthóoŋ	ná?
[it looks/it looks/be afraid]	2.SG	AUX.INFER	pregnant	PTCL

「(対話者の症状の説明や他の医者 of 診断書を見て) どうもあなたは妊娠しているようだ。」

(20) 【伝聞】「～そうだ」

「(天気予報によれば) 明日は雨が降るそうだ。」

(20)-1

dâyyn	wâa	phrûŋnii	fõn	cà?	tòk
hear	COMP	tomorrow	rain	AUX.FUT	fall

(20)-2

phayaakõon	ʔaakàat	bòok	wâa	phrûŋnii	fõn	cà?	tòk
forecast	weather	say	COMP	tomorrow	rain	AUX.FUT	fall

(19)で用いた *duumûan/duuthâa/thâathaay/rúusùk/nâaklua* は、発話者の判断が加わるのに対して、(20)-1, (20)-2とも発話者の判断は加わっていないものとなる。(20)-1のように動詞 *dâyyn* 「聞く」を用いることで伝聞を示すことができる。この日本語文であれば、(20)-2のように *phayaakõon ʔaakàat* 「天気予報」を主語として、*bòok* 「言う」と組み合わせた表現も可能である。

(21) 【反実仮想】「～だったら～するのだが」

「もしお金があったら、あの車を買うんだけどなあ。」

thâa	mii	ŋon	<kõ>	cà?	súuu	rót	khan	nán	[ná?/lè?/lá?]
if	have	money	so	AUX.INT	buy	car	CLF	that	PTCL

接続詞 *thâa* 「もし」を用いて条件文を設定し、意思を示す助動詞 *cà?* を用いた文型となる。終結小辞 *ná?/lè?/lá?* を付加することで、今は実現できない反実仮想の願望を表すことになる。

(22) 【反実仮想過去】「～だったら～したことだろう」

「もしあなたが教えてくれていなかったら、私はそこにたどり着けなかったでしょう。」

(22)-1

thâa	khun	mây	bòok	chán	khøj	cà?	yaŋ	pay	mây	thũŋ	thiínán	nêenêe
if	2.SG	NEG	say	1.SG.F	AUX.INFER	yet	go	NEG	reach	there	surely	

(22)-2

thâa	khun	mây	bòok	chán	ʔaat	cà?	yaŋ	pay	mây	thũŋ	thiínán	kõ	dây
if	2.SG	NEG	say	1.SG.F	AUX.PSBL	yet	go	NEG	reach	there	also	PSBL	

(22)-3

thâa	khun	mây	bòok										
if	2.SG	NEG	say										
pen	pay	dây	wâa	chán	ʔaat	cà?	yaŋ	pay	mây	thũŋ	thiínán	kõ	dây
possibly			COMP	1.SG.F	AUX.PSBL	yet	go	NEG	reach	there	also	PSBL	

(21) 【反実仮想】と同様 *thâa* 「もし」を用いた文型となるが、仮想過去の事象については、根拠が不確かな推量の意を持つ *khøj cà?* や可能性を示す *ʔaat cà?* によって表現することとなるが、(22)-1 は実際には起きていないことを推量することで、(22)-2 は現実とは異なる別の結果が生じる可能性を示すことで、それぞれ反実仮想過去を示している。また、(22)-2 では、*kõ* *dây* 「～という状況もあり得る」を付加することで、現実とは異なる別の結果もあり得たことも示唆している。また、(22)-3 の *pen pay* *dây* *wâa* 「～ということもあり得る」という可能性を表す表現をさらに加えた文も使用される。この日本語文には「まだ」という語は含まれていないが、タイ語で訳出する場合、*yaŋ* 「まだ」を加えることで、反実仮想過去であることをより明確に示すことが可能となる。一方、肯定文の場合、(22)-a のように完了を示す *léew* を用いることで、より明確に反実仮

想過去の意を示すこととなる. さらに, 断定を示す *lâʔ/lèʔ* を使用すると, その可能性が強いことを表すこととなる.

(22)-a

thâa fõn mây tòk kôo khon càʔ pay léew [lâʔ/lèʔ]
if rain NEG fall so AUX.INFER go AUX.PRF PTCL

「もし雨が降らなかったら, 行っただろうな。」

(23) 【3 人称の主体による希望】「～したがっている」

「(あの人は) 街へ行きたがっている。」

<*khon nán*> [*yàak/tõnkaan*] <*càʔ*> [*khâw/pay nay*] *muang*
<person that> want AUX.INT enter town

主語である *khon nán* 「あの人」を非表示とすることも可能であるが, 主語の人称の違いによって表現の差はないため, 非表示とすると文脈によっては発話者の希望と解釈することも可能である. 文脈によって主語が明らかな場合にのみ, 主語を非表示とする.

(24) 【1 人称命令】「(私に) ～させろ」

「僕にもそれを少し飲ませろ。」

(24)-1

hây <*phõm*> *kin* [*bâaŋ/nõy*] <*siʔ/thòʔ*>
CAUS 1.SG.M take a little PTCL

(24)-2

hây <*phõm*> *kin* *dúay* <*siʔ/thòʔ*>
CAUS 1.SG.M take together PTCL

使役を意味する *hây* 「～させる」とともに, (24)-1 では命令の意を持つ終結小辞 *siʔ* や強い依頼の意の *thòʔ* を共起させることで, 命令の意をより明確に表している. *nõy* には「少し」の意味を示す他, 依頼文を和らげる機能もあるが, *bâaŋ* には「一部/少し」といった意味の他にもこの文脈では「～にも」といった意味を含んでいる. (24)-2 の *dúay* には「～にも」の意味のみを示すこととなる.

(25) 【3 人称命令】「(彼に) ～させろ」

「これはあの人に持って行かせろ/持って行かせよう。」

nîi hây <*khon nán*> [*thũuu/hîw/* *pay* [*siʔ/thòʔ*]
khõn/bèek/?aw]
this CAUS <person that> take go PTCL

(24) 【1 人称命令】と同様, 使役の文型が可能であるが, 終結小辞には命令の意の *siʔ* や強い依頼の意の *thòʔ* を用いている. また, 目的語となる *khon nán* 「あの人」が文脈上明らかな場合は非表示することも可能となる.

(26) 【遠未来命令形】「(あとで) ～しろ」

「そのテーブルの上のお菓子は後で食べなさい。」

khanǝm bon tóʔ tua nán <kèp> wáy kin <thiilǎŋ> [náʔ/láʔ]
 confectionery on table CLF that <keep> AUX eat <afterwards> PTCL

wáy は「しておく」という状態を示す助動詞となるが、この語によって「お菓子を取っておき、後で食べる」という表現となる。wáy があれば kèp 「取っておく」と thiilǎŋ 「後で」は非表示とすることもでき、wáy のみで遠未来を表すことが可能となる。また、終結小辞 náʔ/láʔ を付加することで、命令や依頼の意味を明確にすることができるが、láʔの方が「今は不可」であることのニュアンスがより強いものとなる。

(27) 【反実仮想】「～だったら～するのだが」

「もっと早く来ればよかった。」

nâa càʔ maa rew kwàa níi
 AUX come early COMP this

比較文型の中で、nâa càʔ を用いることで、事実としての到着時間 níi 「この（到着時間）」の比較対象となる仮想としての早い到着時間の方がより良い選択肢であったという後悔と推奨の意味を同時に表している。

(28) 【脱従属化】「～したら（どうか）」

「あなたも一緒に行ったら（どうですか）？」

(28)-1

khun kǝ pay dúaykan siʔ
 2.SG also go together PTCL

(28)-2

khun mây pay dúaykan láʔ
 2.SG NEG go together PTCL

(28)-3

khun mây pay dúaykan rǝ
 2.SG NEG go together Q

(28)-4

khun nâa càʔ pay dúaykan náʔ
 2.SG AUX go together PTCL

(28)-1 は同意共感要求の機能を有する終結小辞 siʔ (スニサー 2017) を文末に付加することで強い推奨となり、「どうですか」の訳出を不要としている。(28)-2 は否定形と終結小辞 láʔ を、(28)-3 は否定形と疑問小辞 rǝ をそれぞれ共起させることで推奨の意味を示し、「どうですか」の部分と同じく非表示とすることを許容可能なものとしている。一方、(28)-4 で推奨の助動詞 nâa càʔ と行為要求の終結小辞 náʔ (スニサー 2017) を共起させる用法でも推奨のニュアンスとなる。

(29) 【(疑問詞を含まない) 反語】「～か！」

「オレがそんなこと知るか！」

(29)-1

khray càʔ pay rúu rúaŋ nán [láʔ/láw]
 INDF AUX DIR know story that PTCL

(29)-2

khâa cà? pay rúu rûaŋ nán dâay ɲay [lâ?lâw]
1.SG.M AUX DIR know story that can how PTCL

(29)-1 では khray 「誰が」とともに, cà? pay を使用することが反語表現として必要となる. 一方, (29)-2 のように 1 人称表現 khâa 「俺」を主語することも可能であり, (29)-1 と同じく cà? pay を用いる必要があるとともに, 状況可能の助動詞 dâay 「できる」と ɲay 「どう?」を合わせて用い, 「どうやってできる」の意を表している. なお, lâ?lâw を付加すると答えを求めていることとなり, 「(発話者が) そんなことは知らない」という反語の意を強めることとなる.

(30) 【付加疑問】「～よね!？」

「これを作った (料理した) のは, お母さんだよね?」

(30)-1

khon thîi tham ʔaahǎan nîi m̄e chây máy/rúplàaw
person REL make cuisine this mother that is so Q

(30)-2

khon thîi tham ʔaahǎan nîi m̄e [sì?/nó?]
person REL make cuisine this mother PTCL

「いいえ, 私が作ったのよ。」

(30)-3

mây chây chán tàaŋhàak
NEG that is so 1.SG.F on the contrary

(30)-4

plàaw chán tàaŋhàak
NEG 1.SG.F on the contrary

(30)-5

mây chây chán tham [yâ?lè?lâ?ròk]
NEG that is so 1.SG.F make PTCL

(30)-6

plàaw chán tham [yâ?lè?lâ?ròk]
NEG 1.SG.F make PTCL

(30)-1, (30)-2が疑問文に該当する第1文目, (30)-3, (30)-4, (30)-5, (30)-6が応答文に該当する第2文目を訳出したものとなる. (30)-1では文全体を指示するchây「そう」と疑問小辞mây/rúplàawを共起させ, 情報の確認を行っている(スニサー 2017). (30)-2では対話者への同意共感要求の機能を持つ終結小辞sì?/nó?を付加し, 聞き手に賛同を求める文とすることも訳出が可能である. (30)-3, (30)-5では付加疑問文で用いたchây「そう」を否定する形式であるが, (30)-4, (30)-6では付加疑問文も含めた疑問文全般において否定で答える際に用いるplàawを用いている. (30)-5, (30)-6で付加されているyâ?lè?lâ?ròkは, 意見修正要求の機能を有しており, 対話者や発話者自身が既に述べた意見や考え方などに対して, 発話者が不賛成や異議があることを表し, 前出の意見を修正することを求める意を示している.

略語リスト

1	一人称	first person	INFER	推量	inferential
2	二人称	second person	INT	意思	intention
3	三人称	third person	INTJ	間投詞	interjection
ADV	副詞	adverb	M	男性	masculine
ASP	アスペクト	aspect	NEG	否定	negation, negative
AUX	助動詞	auxiliary	OBJ	目的語	object
CAUS	使役	causative	PL	複数	plural
CLF	類別詞	classifier	PRF	完了	perfect
COMP	比較	comparative	PROH	禁止	prohibitive
COMP	補文マーカ	complementizer	PSBL	可能性	possible
CONJ	接続詞	conjunction	PTCL	小辞	particle
COP	コピュラ	copula	Q	疑問小辞	question particle
DIR	方向接辞	directional prefix	REL	関係詞	relative
EMPH	強調	epenthesis	REQ	依頼	request
F	女性	feminine	SBJ	主語	subject
FOC	焦点	FOC	SG	単数	singular
FUT	未来	future	STAT	状態	stative
HS	伝聞	hearsay	TR	他動詞	transitive
INDF	不定代名詞	indefinite			

参考文献

- 峰岸真琴・スニサー ウィッタヤーパンヤーノン. 2019. 「タイ語の主題とその談話での現れ方について」, 『言語の類型的特徴対照研究会論集』第2号, pp.111-135.
- スニサー ウィッタヤーパンヤーノン. 2017. 「タイ語話し言葉コーパスから見た「語用論的終結小辞」」, 『アジア・アフリカ言語文化研究』94号, pp.111-136.
- スニサー ウィッタヤーパンヤーノン. 2017. 『表現を広げる中級へのタイ語』, 三修社.
- スニサー ウィッタヤーパンヤーノン. 2016. 『表現を身につける初級タイ語』, 三修社.

執筆者連絡先 : sunisa@tufs.ac.jp

原稿受理 : 2020年12月15日